

独立行政法人 国立病院機構

沖縄病院における治験審査委員会

標準的業務手順書

【独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院】

令和2年4月1日



独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院における治験審査委員会 標準的業務手順書

第1章 治験審査委員会

(目的と適用範囲)

- 第1条 本手順書は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(以下「医薬品医療機器等法」という)、医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令(平成9年厚生省令第28号)(以下「医薬品GCP省令」という)、医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令(平成16年厚生労働省令第171号)、医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令(平成17年厚生労働省令第36号)(以下「医療機器GCP省令」という)、医療機器の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令(平成17年厚生労働省令第38号)又は「再生医療等製品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令」(平成26年厚生労働省令第90号)、これらの省令の一部改正する省令並びにこれらの省令に関連する通知書等に基づいて、治験に係る標準業務手順書第12条第1項の規定により独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院(以下「本院」という)に設置された治験審査委員会の運営に関する手続き及び記録の保存方法を定めるものである。
- 2 本手順書は、医薬品、医療機器及び再生医療等製品の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集のために行う治験に対して適用する。
- 3 再生医療等製品の治験を行う場合は、「再生医療等製品の臨床試験の実施の基準に関する省令」(平成26年厚生労働省令第89号)(以下「再生医療等製品GCP省令」という)並びに再生医療等製品GCP省令に関連する通知等に基づき治験を行うこととする。
この場合には、本手順書において「GCP省令」を「再生医療等製品GCP省令」、「治験薬」を「治験製品」、「被験薬」を「被験製品」、「有害事象」を「有害事象及び不具合」と適切に読み替えるものとする。
- 4 製造販売後臨床試験に対しては、医薬品のGCP省令第56条及び医療機器GCP省令第76条に準じ、「治験」等とあるのを「製造販売後臨床試験」等と読み替えることにより、本手順書を適用する。
- 5 医療機器の治験に当たっては、本手順書において「医薬品」とあるのを「医療機器」、「治験薬」とあるのを「治験機器」、「副作用」とあるのを「不具合又は不具合による影響」とそれぞれ読み替えるものとする。
- 6 本手順書において使用する書式は、最新の「治験の依頼等に係る統一書式」で規定される書

式のほか、必要に応じて別に定める。

- 7 本委員会は、他の医療機関の長から治験の調査審査を受託依頼された場合は、当該治験の調査審議を行なうことが出来る。この場合は、当該医療機関の長と事前に契約を締結する。調査審議受託にあたり、当該医療機関の長から治験審査委員会標準業務手順書及び委員名簿等の写しを求められた場合は、提供するものとする。この場合、本手順書中の「本院」は「調査審議対象他施設」と、「院長」は「調査審議対象他施設の長」と読み替えるものとする。

(治験審査委員会の責務)

第2条 治験審査委員会は、すべての被験者の人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図らなければならない。

- 2 治験審査委員会は、社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払わなければならない。
- 3 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について調査・審議を行わなければならない。
- 4 治験審査委員会は、調査・審議に供した資料及び情報について守秘義務を負う。

(治験審査委員会の設置及び構成)

第3条 治験審査委員会は、院長が指名する者10名以上をもって構成する。なお、院長は治験審査委員会の委員にはなれないものとする。

- (1) 委員長：臨床研究部長
 - (2) 副委員長：薬剤部長
 - (3) 委員：副院長、医長（数名）、看護部長、副薬剤部長
 - (4) 医学、歯学、薬学その他の医療又は臨床試験に関する専門的知識を有する者以外の委員（下記第5号の委員を除く）：事務部長、企画課長、経営企画室長、業務班長
 - (5) 実施医療機関と利害関係を有しない委員：外部委員 2名以上
- 2 前項第5号の委員の任期は2年とするが、再任は妨げない。
 - 3 治験審査委員会は、男女両性で構成されることが望ましい。
 - 4 委員長が委員長としての業務を行えない場合には、副委員長にその代行をさせるものとする。また、委員長及び副委員長が共に委員長としての業務を行えない場合には委員の互選をもって委員長代行を選出し、業務を代行させるものとする。

(治験審査委員会の業務)

第4条 治験審査委員会は、その責務の遂行のために、次の最新の資料を院長から入手しなければならない。

(1) 治験実施計画書（治験責任医師と治験依頼者が合意したもの）

但し、実施医療機関の名称及び所在地、治験責任医師となるべき者の氏名及び職名並びに各実施医療機関を担当するモニター（モニターが複数である場合にはその代表者）の氏名、職名及び電話番号等の医療機関に特有の情報について治験実施計画書の別冊とされている場合は、本院に係るもののみでも良いこととする。

(2) 症例報告書の見本

但し、治験実施計画書において、症例報告書に記載すべき事項が十分に読み取れる場合は、当該治験実施計画書をもって症例報告書の見本に関する事項を含むものと解することができる。

(3) 同意文書及び説明文書（治験責任医師が治験依頼者の協力を得て作成したもの）

(4) 被験者の募集手順（広告等）に関する資料（募集する場合）

(5) 治験責任医師及び治験分担医師の氏名を記載した文書

(6) 治験薬概要書

(7) 被験者の安全等に係る報告

(8) 治験の費用の負担について説明した文書（被験者への支払（支払がある場合）に関する資料

(9) 被験者の健康被害に対する補償に関する資料

(10) 治験責任医師が医薬品GCP省令第42条、医療機器GCP省令第62条又は再生医療等製品GCP62条に規定する要件を満たすことを証明した「履歴書（統一書式1）」及び調査審議に必要な場合には治験分担医師の「履歴書（統一書式1）」

(11) 治験の現況の概要に関する資料（継続審査等の場合）「治験実施状況報告書（統一書式11）」

(12) その他治験審査委員会が必要と認める資料

2 治験審査委員会は、次の事項について調査・審議し、記録を作成する。

(1) 治験を実施することの倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点からの妥当性に関する事項

ア 実施医療機関が十分な臨床観察及び試験検査を行うことができ、かつ、緊急時に必要な措置を採ることができる等、当該治験を適切に実施できること

イ 治験責任医師(必要時治験分担医師)が当該治験を実施する上で適格であるか否かを最新の履歴書等により検討すること

ウ 治験の目的、計画及び実施が妥当なものであること

エ 被験者の同意を得るに際しての説明文書及び同意文書の内容が適切であること

オ 被験者の同意を得る方法が適切であること

- カ 被験者への健康被害に対する補償の内容が適切であること
- キ 被験者に対する支払いがある場合には、その内容、方法が適切であること
- ク 被験者の募集手順（広告等）がある場合には、募集の方法が適切であること

（２）治験実施中又は終了時に行う調査・審議事項

- ア 被験者の同意が適切に得られていること
- イ 以下にあげる治験実施計画書の変更の妥当性を調査・審議すること
 - １）被験者に対する緊急の危険を回避するなど医療上やむを得ない事情のために行った治験実施計画書からの逸脱又は変更
 - ２）被験者に対する危険を増大させるか又は治験の実施に重大な影響を及ぼす治験に関するあらゆる変更
- ウ 治験実施中に本院で発生した重篤な有害事象報告に基づく、当該治験の継続の可否を調査・審議すること
- エ 被験者の安全又は当該治験の実施に悪影響を及ぼす可能性のある重大な情報に基づき、当該治験の継続の可否を調査・審議すること

注）重大な情報

- １）他施設で発生した重篤で予測できない副作用
 - ２）重篤な副作用又は治験薬及び市販医薬品の使用による感染症の発生数、発生頻度、発生条件等の発生傾向が治験薬概要書から予測できないもの
 - ３）死亡又は死亡につながるおそれのある症例のうち、副作用によるもの又は治験薬及び市販医薬品の使用による感染症によるもの
 - ４）副作用又は治験薬及び市販医薬品の使用による感染症の発生数、発生頻度、発生条件等の発生傾向が著しく変化したことを示す研究報告
 - ５）治験の対象となる疾患に対し効能若しくは効果を有しないことを示す研究報告
 - ６）副作用又は感染症によりがんその他の重大な疾病、障害又は死亡が発生するおそれがあることを示す研究報告
 - ７）当該被験薬と同一成分を含む市販医薬品に係る製造、輸入又は販売の中止、回収、廃棄その他の保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するための措置の実施
- オ 治験の実施状況について少なくとも１年に１回以上審議すること
 - カ 治験の終了、治験の中止又は中断及び開発の中止を確認すること

（３）その他治験審査委員会が求める事項

- ３ 治験審査委員会は、治験責任医師に対して治験審査委員会が治験の実施を承認し、これに基づく院長の指示及び決定が文書で通知され、契約締結されるまで被験者を治験に参加させないように求めるものとする。
- ４ 治験審査委員会は、被験者に対する緊急の危険を回避するためなど医療上やむを得ない場

合、又は変更が事務的事項に関するものである場合（例：治験依頼者の組織・体制変更、実施医療機関の名称・診療科名の変更、実施医療機関及び治験依頼者の所在地又は電話番号の変更、治験責任医師の氏名表記、所属及び職名の変更、モニターの変更）を除き、治験審査委員会から承認の文書を得る前に治験実施計画書からの逸脱又は変更を開始しないよう求めることとする。

5 治験審査委員会は、治験責任医師又は治験依頼者が以下の事項を院長を経由して治験審査委員会に速やかに文書で報告するよう求めるものとする。

- （１）被験者に対する緊急の危険を回避するなど医療上やむを得ない事情のために行った治験実施計画書からの逸脱又は変更に関する報告
- （２）被験者に対する危険を増大させるか又は治験の実施に重大な影響を及ぼす治験に関するあらゆる変更
- （３）全ての重篤で予測できない副作用等
- （４）被験者の安全又は当該治験の実施に悪影響を及ぼす可能性のある新たな情報
- （５）治験期間中の審査の対象となる文書の追加、更新又は改訂が行われた場合

6 治験審査委員会は被験者に対して直接の臨床的利益が期待できない非治療的な内容の治験であって、被験者の同意を得ることが困難な者を対象とすることが予測される治験について承認する場合には、かかる被験者の参加を承認する旨を承認文書に記載する。

7 緊急状況下における救命的な内容の治験において、被験者による事前の同意を得ることが不可能で、かつ、被験者の代諾者と連絡が取れない場合にも治験が行われることが予測される場合には、承認文書中に、被験者及び代諾者の同意なしに治験に参加する際の人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図るための方法、及び治験責任医師等が速やかに被験者又は代諾者となるべきものに対して説明し同意を得た経緯と結果を治験審査委員会に報告するよう承認文書に記載する。

（治験審査委員会の運営）

第5条 治験審査委員会は、原則として月1回（第4週の月曜日）開催する。ただし、院長から緊急に意見を求められた場合には、随時委員会を開催することができる。

2 治験審査委員会は、実施中の各治験について、被験者に対する危険の程度に応じて、少なくとも1年に1回の頻度で治験が適切に実施されているか否かを継続的に調査・審議するものとする。

なお、必要に応じて治験の実施状況について調査し、必要な場合には、院長に意見を文書で通知するものとする。

3 治験審査委員会の開催に当たっては、あらかじめ治験審査委員会事務局から原則として2週間前に文書で委員長及び各委員に通知するものとする。

- 4 治験審査委員会は、以下の要件を満たす会議においてのみ、その意思を決定できるものとする。
 - (1) 審議の採決に参加できる委員が、委員総数の過半数参加していること。かつ最低でも5名以上の委員が参加していること。
 - (2) 本手順書第3条第1項第4号の委員が少なくとも1名参加していること。
 - (3) 本手順書第3条第1項第5号の委員が少なくとも1名参加していること。
- 5 採決に当たっては、審議に参加した委員のみが採決への参加を許されるものとする。
- 6 当該治験の治験依頼者と関係のある委員（治験依頼者の役員又は職員、その他の治験依頼者と密接な関係を有する者）、治験責任医師及び治験責任医師と関係のある委員（治験分担医師又は治験協力者）は、その関与する治験について情報を提供することは許されるが、当該治験に関する事項の審議及び採決への参加はできないものとする。
- 7 委員長が特に必要と認める場合には、委員以外の特別の分野の専門家を委員会に出席させて意見を聞くことができる。
- 8 採決は出席した委員全員の合意を原則とする。
- 9 意見は次の各号のいずれかによる。
 - (1) 承認する
 - (2) 修正の上で承認する
 - (3) 却下する
 - (4) 既に承認した事項を取り消す（治験の中止又は中断を含む）
 - (5) 保留する
- 10 院長は治験審査委員会の審査結果について異議ある場合には、理由書を添えて治験審査委員会に再審査を請求することができる。
- 11 治験審査委員会は、審査及び採決に参加した委員名簿（各委員の資格及び職名を含む）に関する記録及び、会議の記録及びその概要を作成し保存するものとする。なお、会議の記録の概要については次の各号により作成する。
 - (1) 開催日時
 - (2) 開催場所
 - (3) 出席委員名
 - (4) 議題（治験薬の成分記号又は一般名及び治験依頼者名含む。なお、第Ⅲ相試験の場合は開発の相及び対象疾患名を含める。）
 - (5) 審議結果を含む主な議論の概要
- 12 治験審査委員会は、審査終了後速やかに院長に、「治験審査結果通知書（統一書式5）」により報告する。「治験審査結果通知書（統一書式5）」には、以下の事項を記載するものとする。

- (1) 審査対象の治験
- (2) 審査した資料
- (3) 審査日
- (4) 参加委員名
- (5) 治験に関する委員会の決定
- (6) 決定の理由
- (7) 修正条件等がある場合は、その条件
- (8) 治験審査委員会の名称と所在地
- (9) 治験審査委員会が医薬品及び医療機器GCP省令等の法令に従って組織され、活動している旨を治験審査委員会が自ら確認し保証する旨の陳述

13 治験審査委員会は、承認済の治験について、治験期間内の軽微な変更の場合には、迅速審査又は委員会での報告事項として取り扱うことができる。

ここでいう軽微な変更とは、治験の実施に影響を与えない範囲で、変更により生ずる危険性が被験者の日常生活における危険性又は通常行われる理学的あるいは心理学的検査における危険性より高くない変更をいう。何らかの身体的侵襲を伴う検査を伴う変更は除かれる。迅速審査の具体例として、治験の期間が1年を超えない場合の治験実施期間延長、治験分担医師の追加・削除等が該当する。迅速審査・報告事項の対象か否かの判断は治験審査委員会委員長が行う。

迅速審査は治験審査委員会委員長が行い、本条第9項に従って判定し、本条第12項に従って院長に報告する。治験審査委員会委員長は、次回の治験審査委員会で迅速審査の内容と判定を報告する。

なお、委員長が当該迅速審査の対象となる治験の関係者である場合は、副委員長他の委員を指名して代行させる。また、報告事項については直近の治験審査委員会で報告する。

第2章 治験審査委員会事務局

(治験審査委員会事務局の業務)

第6条 治験審査委員会事務局は、治験審査委員会委員長の指示により、次の業務を行うものとする。

- (1) 治験審査委員会の開催準備
- (2) 治験審査委員会の会議の記録（Q and Aを含む）及びその概要（審議及び採決に参加した委員の名簿を含む）の作成
- (3) 「治験審査結果通知書（統一書式5）」の作成及び院長への提出

(4) 記録の保存

治験審査委員会で審査の対象としたあらゆる資料、会議の記録（Q and Aを含む）及びその概要、治験審査委員会が作成するその他の資料等を保存する。

(5) その他治験審査委員会に関する業務の円滑化を図るために必要な事務及び支援

2 治験審査委員会事務局は次の各号に示すものをホームページ等に公表する。

(1) 治験審査委員会標準業務手順書

(2) 委員名簿

(3) 会議の記録の概要

(4) 治験審査委員会の開催予定日

3 本条前項第1号、第2号に関して変更があった場合は直ちに更新し、履歴を作成するものとする。

なお、本条前項第3号会議の記録の概要については治験審査委員会の開催後2か月以内を目処に公表するものとする。

4 治験審査委員会事務局は会議の記録の概要の公表の際、当該治験依頼者より知的財産権を侵害する内容が含まれていないか事前に確認したい旨の求めがあった場合には、これに応じると共に、必要に応じてマスキング等の措置を講じた上で公表する。

第3章 記録の保存

(記録の保存責任者)

第7条 治験審査委員会における記録の保存責任者は治験審査委員会事務局長とする。

2 治験審査委員会において保存する文書は以下のものである。

(1) 当業務手順書

(2) 委員名簿（委員の職業・資格及び所属を含む）

(3) 提出された文書

(4) 会議の議事要旨（審議及び採決に参加した委員名簿を含む）

(5) 書簡等の記録

(6) その他必要と認めたもの

(記録の保存期間)

第8条 治験審査委員会における保存すべき文書は、治験においては、次の第1号又は第2号の日のうち後の日までの間保存するものとする。製造販売後臨床試験においては、次の第3号に示すまでの間保存するものとする。ただし、治験依頼者がこれよりも長期間の保存を必要とする場合には、保存期間、保存方法及び経費について治験依頼者と協議するものとする。

(1) (治験の場合)

当該被験薬等に係る製造販売承認取得日（開発中止の場合には中止決定の通知を受けた日から3年が経過した日）又は、治験の中止若しくは終了後3年が経過した日のいずれか遅い日

（法23条の26第1項の規定により条件及び期限を付したものを除く）

(2) (製造販売後臨床試験の場合)

当該被験薬等に係る再審査又は再評価終了日。ただし、法第23条の25第3項（法第23条の26第5項において読み替え適用する場合に限る。）に規定する資料を収集するために行った製造販売後臨床試験については、製造販売の承認を受ける日又は製造販売後臨床試験の中止もしくは終了の後3年を経過した日のうちいずれか遅い日

- 2 国際共同治験等のICH-GCPに準ずる場合には、保存期間、保存方法及び経費について治験依頼者と協議するものとする。
- 3 治験審査委員会は、院長を経由して、治験依頼者より本条第1項にいう承認取得あるいは「開発中止等に関する報告書（統一書式18）」を受けるものとする。

(付則)

この手順書は、平成21年4月1日から施行する。

この手順書は、平成22年8月1日から施行する。

この手順書は、平成24年8月1日から施行する。

この手順書は、平成26年10月1日から施行する。

この手順書は、平成27年8月1日から施行する。

この手順書は、平成30年9月1日に作成し、同日より施行する。

この手順書は、令和2年4月1日より施行する。